

第4回早石修記念賞

公益財団法人 小野医学研究財団（理事長：川淵 和一十）は、2020年11月25日（水）に開催されました理事会において、一般財団法人 住友病院 名誉院長・最高顧問 松澤 佑次博士に「2020年度 第4回早石修記念賞」を贈呈することを決定いたしました。

受賞者には、正賞（楯）、副賞 500万円が贈られました。

贈呈式は、2021年6月12日（土）午後4時30分より、千里ライフサイエンスセンター（大阪）にて執り行われました。

《受賞者》

松澤 佑次（まつざわ ゆうじ）博士

一般財団法人 住友病院 名誉院長・最高顧問



《受賞対象となった研究業績》

「メタボリックシンドローム概念の確立とアデポネクチンの発見による分子基盤の解明」

松澤博士は CT スキャンによる肥満者の脂肪細胞の分析法を開発し、肥満と糖尿病、高脂血症、高血圧さらには動脈硬化の発症の関係は腹腔内臓脂肪（腸間膜脂肪）の蓄積によって規定されることを世界に先駆けて明らかにし、内臓脂肪症候群、メタボリックシンドロームという疾病概念を作り上げた。さらに脂肪細胞に強く発現しているアデポネクチンを発見し、アデポネクチンが強力な抗糖尿病、高動脈硬化、抗炎症作用などを持ち、生活習慣病と呼ばれる疾患の発生を抑制することを証明した。

またメタボリックシンドロームの概念は、厚生労働省が 2008 年から健康政策として開始した特定健診・特定保健指導の政策の論理的基盤となっており、日本での内臓脂肪にフォーカスした健康政策の成功によって、国際動脈学会を中心に内臓脂肪型肥満の重要性が広く世界的に認知された。世界の医学者を巻き込み、メタボリックシンドロームという概念を作り上げたこと、その分子基盤に迫ったこれらの業績は、「脂質研究に於ける独創的な研究による新しい分野の確立」を対象とする早石修記念賞の受賞としてふさわしいと考えられる。

《略歴》

- 1960年4月 大阪大学医学部入学
- 1966年3月 同 卒業
- 1967年4月 大阪大学医学部第二内科学教室に入局、研究に従事
- 1977年10月 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校留学
- 1988年5月 大阪大学講師 医学部(内科学第二)
- 1991年8月 大阪大学教授 医学部(内科学第二) (2003年3月任期終了)
(1997年4月より大学院医学系研究科生体制御医学専攻分子制御内科学に名称変更)
- 2000年4月 大阪大学医学部附属病院長 (2002年3月任期終了)
- 2003年4月 大阪大学名誉教授
- 2003年4月 一般財団法人住友病院 院長(2019年6月任期終了)
- 2019年4月 ペルー大学名誉教授
- 2019年6月 一般財団法人住友病院 名誉院長・最高顧問 (現職)